

パリジアンのない夏のパリ！地方のフランス人にも人気のパリ観光



フランスの夏休みは7～8月の2ヶ月です。実際にヴァカンスに出るのは7月14日の革命記念日後から、聖母の被昇天の祭日8月15日までの間のよう

です。では、本来なら都市の人口が減る時期にルーヴル美術館やノートルダム寺院で列を作っているのは誰なのでしょう？

地方のフランス人にも人気のパリ観光



7月終わりから8月前半が、最も都市の人口が減る時期であり、**夏のパリにはパリジアンはほとんどいないのです**。ご想像通り、外国人観光客が大多数ですが、**実は地方に住むフランス人もかなりな数に上ります**。

2014年の統計では、ヴァカンスにパリに上った地方のフランス人は、1160万人もいたそうです。ちなみに同時期パリを訪れた外国人観光客は1350万人でした。

この夏、地方からパリを訪れたフランス人のインタビューが、先日[Le Parisien紙](#)

に載っていました。まとめると、パリの魅力はやっぱりその文化性

。美術館にしても、展覧会にしても、モニュメントにしても、文化遺産、イベントがごまんとあり、お店も様々で、すべてが至近距離。地方から来ると、特にそれが何より素晴らしく見えます。

地方のフランス人も一度は行きたいパリ



夏はすべてがスローで寛いだ雰囲気なのも、特に子連れには嬉しいところ。というのも、**地方組は「子供に首都パリを見せるのが目的！」という家族連れが特に多いのです。**

他の季節ならちょっとできないかも？というような都心でのピクニックも夏は平気でできてしま

います。彼らのプログラムは、おおむね外国人観光客と同じで、エッフェル塔、ルーヴル美術館、バトームーシュ、ラ・ヴィレットの科学工業センター、ノートルダム寺院、パリ・プラージュ、などなど。

地方のフランス人から見たパリは？



ただし、物価の高さ

には、誰もが驚いています。いくつかのモニュメントの入場料はもちろんのこと、スーパーの日用品ですら、「私の町より高いわ。」という声も上がっています。

もう一つの残念な点は、列を作って待つ時間が長い

こと。「メトロの切符さえ並ばないと買えないなんて！」というのは多くの地方人の感想です。

外国人旅行者と異なるのは、宿泊場所。外国人はホテルに滞在するケースが大半ですが、地方から来たフランス人は半数近くが、知り合いや親戚の家に滞在しています。

パリのアパートの鍵を持ち

、つかの間のパリジアンとなった彼らも、**パリの人は冷たい**

と感じることが多いそうです。「誰も他人には目もくれやしない。」というのは、インタビューされたノール（北）出身の女性。「でもその分、どんな服装でも外に出られるから楽ね。」と前向きな言葉が続きます。

どうでしょう、夏のパリを訪れたことのある方、皆さんの感想と重なるところはありますか？

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
—— アンサンブルアンフランセ ——

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

